

講座 国際農林経済学

2.6.6 研究分野：国際農村発展論

構成員：教授	福井清一
准教授	浅見淳之
助教	中田義昭
大学院博士後期課程	6名
大学院修士課程	4名
専攻4回生	2名

A. 研究活動（2010.4～2011.3）

A-1. 研究概要

a) 開発途上国の農村・農林業部門の発展諸問題の研究

開発途上諸国の農村・農林業部門における、農家・農村経済問題、貧困問題、飢餓問題、農業技術、農村金融・投資、流通問題、組織問題、農林生産物需給、貿易・政策問題、人口爆発、草地・水・森林・水産資源などの資源枯渇・環境問題、経済発展による伝統社会の変容問題、ODAとNGOを含む農林水産業協力・援助の実態と問題を、新古典派経済学を基礎としながら、その応用である農業経済学、農業経営学、農業政策学、農業発展論、経済発展論、国際経済学、環境経済学、さらには計量経済学などの経済学的方法と、臨地調査の方法により研究し、それら研究と関連させて、大学院・学部教育を行っている。

b) 開発問題の新制度経済学的な研究

新制度経済学、新古典派経済学を基礎としながら、臨地調査ならびに計量経済学の方法、特に一次データや統計の個票による農家のマイクロデータの分析に基づき、中国、東南アジア、中東、サブサハラアフリカを対象に、その農村・農家経済を形作っている諸制度、市場、組織の諸問題とそれらの関係構造を、歴史、社会、文化、政治、法制度まで含めて研究し、この研究と関連させて、大学院と学部教育を行っている。

c) 具体的研究 1) ハイブリッド型貧困削減戦略に関する行動経済学的研究

貧困削減を目的とした農村開発政策の効率化が課題となっている一方で、現実の途上国では、インフォーマルな制度や慣行をとおして貧困緩和が実現されている事例が数多く観察されている。そこでは、公平性、互酬性、信頼などの諸要素が相互扶助的行動を引き起こし、それが貧困緩和に貢献していると考えられている。途上国における開発行政の脆弱性を考慮すると、これらの内発的な制度・慣行の利点を生かした新しい戦略を考案することが有効であると考えられる。当分野では、このような制度・慣行の貧困緩和メカニズムを解明するために、実験ゲームやネットワーク理論に基づく実証研究の方法を取り入れ、公平性、利他性、互酬性などの性向、信頼による社会関係資本の蓄積の程度が、いかにして、相互扶助的行動を生み出すのかについての調査研究を行っている。

d) 具体的研究 2) 中国農村における制度システムの人治から法治への移行

中国農村の市場システムは、慣習経済による「人治」と法制度による「法治」という対立的な制度システムの上に運営されている。そこで第一に、農村での市場取引制度を規定する、法律の完備性を、規範的、実証的に明らかにし、第二に、依然として用いられている「人治」と比較する枠組みで、「人治」から「法治」への移行過程の効率性と公平性を実証的に明らかにしようとしている。農村での農家面接調査を行い農村、農民レベルでの法制度の執行状態、慣習経済、農家経済に関する一次データを収集し、これに基づき、法律、経済、社会といった極めて学際的な領域を、新制度派経済学、特に「法と経済学」による方法の枠組みをもとに分析を行っている。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著 書

・浅見淳之編 『戦前期の農家簿記と農林省農家経済調査 ―京大式簿記を中心に―』、一橋大学経済研究所、2011年、1～294頁。

原著論文（書評論文を含む）

・Miwa, K., Han P. and Fukui, S., Does Child Labour Have a Negative Impact on Child Education and Health? A Case Study in Rural Cambodia”, Oxford Development Studies, 2010, Vol. 38, No. 3, pp. 357-382.

・福井清一、高篠仁奈、ジャンクン・ハンドヨ・ムリョ、「貧困層のリスクプーリングと社会的ネットワークおよびA r i s a n の役割—中部ジャワ農村における事例—」『生物資源経済研究』2011年、3月、第16号、75－93頁。

・Atsuyuki Asami、Social Embeddedness in Economic Transactions through Informal Institutions in Rural China, The Japanese Journal of Rural Economics, Vol.13, 2011, pp.15-31. （査読あり）

・浅見淳之、書評 木南莉莉「中国におけるクラスター戦略による農業農村開発」『フードシステム研究』、第17巻第1号、2010年、52-54頁。

b) 学会発表

- ・福井清一、日本農業経済学会・個別報告1回、特別セッション報告2（震災のため2011年）
- ・浅見淳之 中国経済学会 1回

A-3. 国内における学会活動など①

所属学会等（役割）

・福井清一：地域農林経済学会、企画担当常任理事（2010年10月まで）、地域農林経済学会、副会長（2010年10月から）

A-3. 国内における学会活動など②

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

・基盤研究（A）：福井清一：アジア地域農村におけるハイブリッド型貧困削減政策に関する行動経済学的研究

・基盤研究（C）：浅見淳之：中国農村における制度システムの人治から法治への移行－法と経済学の視点から－

・基盤研究（A）：北村行伸：「戦前期農家経済の実証分析：パネルデータ化の試み」

A-4. 国際交流・海外活動①

国際共同研究・海外学術調査等

・「カンボジアにおけるインフォーマル・リスクプーリングと社会的ネットワークの研究」研究代表者：福井清一、Cambodia Development Resource Institute

・「信頼と危険回避、利他性の関係に関する行動経済学的研究」研究代表者：福井清一、ガジャマダ大学農学部

・「インドにおけるインフォーマル・リスクプーリングとカースト制度の研究」研究代表者：福井清一、RKB Evening College, West Bengal

・「ラオスにおける農業の技術選択に関する研究」研究代表者：福井清一、National Economic Research Institute

・「中国農村部における農業合作社の実態」、研究代表者：浅見淳之、青島農業大学

A-4. 国際交流・海外活動②

外国人研究者の受入

・学部長 1名 （中国）

・短期訪問者 3名 （インドネシア）

B. 教育活動（2010. 4～2011. 3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・全学共通科目： 全学共通科目「世界の食料・農業・環境」、福井清一（新山陽子・末原達郎）
- ・学部： 福井清一「食料環境経済学概論」、「国際農村発展論」、福井清一・浅見淳之・中田義昭「国際農村発展論演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」、浅見淳之「農業発展論」、「食料環境基礎社会・経済論」
- ・大学院： 福井清一「国際農村発展論Ⅰ，Ⅱ」，福井清一・浅見淳之・中田義昭「国際農村発展論演習Ⅰ，Ⅱ」、浅見淳之「国際農林協力論」

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・福井清一：神戸大学・大学院農学研究科

公開講座等

- ・福井清一：京都大学・オープンキャンパス、ミニレクチャー

B-3. 国際的教育活動①

留学生・外国人研修員の受入

- ・留学生： 博士課程 4名（中国 2、ラオス 1、カンボジア 1）

C. その他

- ・福井清一：文部科学省、高等教育局大学設置学校法人審議会専門委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

- ・浅見淳之：日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

特記事項：

浅見淳之 2010年度日本農業経済学会学会誌賞受賞